

平成27年4月1日

## 認定こども園かおり幼稚園 教育保育課程

幼保連携型認定こども園に移行するにあたり、0才児から就学前までの発達を見通した教育保育課程を新たに制定する。

### ○ 教育保育方針

個々の子どもが持つ可能性を幅広く引き出し、伸ばすことを最重要目標とし、自由な発想・自由な表現を最大限に尊重し、規制や制限、禁止や抑圧を必要最小限に留める教育とする。失敗を恐れない思い切った多様な活動を通して、豊かな個性や創造性、子どもらしい好奇心や意欲、生きる知恵や人間らしい優しさ、主体性や協調性等、人として幸せに生きるための基礎を獲得し助長することを期待した教育活動とする。

### ○ 教育目標

『太陽と緑と風の中で 伸び伸びと遊ばせながら こんな子どもに育てる』

- 1 バイタリティーのある子どもに
- 2 創造することに喜びを持つ子どもに
- 3 自然に親しみ、観察し、大切にすること子どもに
- 4 社会集団の一員として協調し、積極的に推進すること子どもに
- 5 出来得る限りの努力を惜しまない子どもに
- 6 知識の吸収に意欲をもつ子どもに
- 7 心の豊かな子どもに

### ○ 教育日数・時間等

- 1 年間の教育週数は、39週以上とする。  
(1週とは、日曜日から土曜日の間で、保育日のある週である)
- 2 年間の三学期に分ける。  
第一学期 4月1日～7月31日  
第二学期 8月1日～12月31日  
第三学期 1月1日～3月31日
- 3 休園日及び休業日
  - ・ 日曜日及び「国民の祝日に関する法律」に定める休日
  - ・ 園長が臨時に定める休園日
  - ・ 夏期休業－7月25日～8月31日  
冬期休業－12月25日～1月9日  
春季休業－3月25日～4月5日

- 4 教育時間は、通常（平日）午前10時から午後2時30分とし、学期の始期等必要に応じて午前11時に終了する。なお、迎えバス乗車時から送りバス降車時まで教育活動を継続する。
- 5 保育を必要とする園児に対する教育保育活動においては8時間を基準とする。教育時間内の活動においては保育を必要としない園児と合同で行うものとし、教育時間以外の活動については預かり保育と位置付け、園児の特性や園児の状況に配慮しながら、教育時間に準じた活動を行う。

○ 年間行事（特別活動）

- 4月：入園式・始業式・教師と保護者の個別面談・誕生会
- 5月：親子遠足・保育参観・健康検査・誕生会・子どもの日・母の日・PTA総会
- 6月：田植え・ドロンコ遊び・ジャガイモ掘り・プール開き・父の日・誕生会
- 7月：七夕祭・ドロンコ遊び・終業式・夏期休業・年長児宿泊保育・誕生会
- 8月：夏祭り・夏期休業・夏期保育（預り保育）
- 9月：始業式・防災の日・敬老の日・運動会練習・誕生会
- 10月：運動会・遠足・サツマイモ掘り・稲刈り・絵画展出品・誕生会
- 11月：七五三・ダイコン掘り・誕生会
- 12月：親子のつどい・年末お楽しみ会・誕生会・終業式・冬期休業
- 1月：冬期休業・始業式・小正月・誕生会
- 2月：節分・発表会・誕生会
- 3月：卒園児を送る会・卒園式・終業式・春期休業

○ 指導計画作成の基本方針

教育保育活動に関する計画の作成に当たっては、認定こども園に入園した年齢により集団生活の経験年数が異なる園児がいることに配慮し、0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育を園児の発達の連続性を考慮したうえで以下の方針とする。

1. 多様な実体験を通して、考え創造し、挑戦して解決する等、多様なものを総合的に学習すると共に新たな物事へ取り組む意欲を育てる保育とすること。
2. 年間保育計画は、当該年度の在園児の状況や環境状況等を勘案して毎年4月中に、年次毎に作成する。なお、計画の実行に当たっては、各クラスの特色及び環境の実情に合わせて柔軟に対応し、追加や一部変更を積極的に行うこと。
3. 3才未満児の指導計画作成にあたっては特に健康、安全や発達の確保を十分に図る

こととする。

4. 個々の園児の保育目標等は4月中に定め、発育に依りて逐次変更する。目標の設定に当たっては、発達の遅れた部分の補正にのみならず捕らわれてはならない。
5. 在園時間が異なる多様な園児がいることを踏まえ、園児の生活が安定するよう、家庭や地域、園における生活の連続性を確保するとともに、一日の生活のリズムを整えるよう工夫をすること。
6. 一人ひとりの園児が、教師を信頼して心を開き、積極的に関わることの出来る活動を精選すること。
7. 各種行事の実施に当たっては、園児の努力と能力発育に重点を置き、外見の見栄えにとらわれてはならない。
8. 倫理生の芽生え：自己を大切にすると同様に他者を大切にすることを基本に、園生活全体を通して、園児の発達に即して学習させ習慣付ける。
  - ① 個々の園児の自由を認めた活動を通して、相手の自由や個性を尊重させる。
  - ② 社会や集団の中で積極的に推進すべきことや自己抑制すべき事柄を指導する。
  - ③ 「他者の喜びと自己の喜びが一致する」活動を多く経験させる。
9. 数と文字：園児の興味や関心を尊重して、園の自然な活動を通して無理せず知的欲求を満足させる程度に止めことを基本とし、早期教育に当たるような取り扱いは避け、遊びを中心とした幼児の心身の正常な発達を阻害しないよう厳重に注意する。
10. 園内にて野菜等を栽培することを通じて食べ物に関する興味や関心を喚起する。また仲間との楽しい食事体験は人間関係の基礎を養う重要な体験となることを留意し、家庭との連携を考慮に入れた上で取り組みを行う。
11. 「特別教室」は、年長児と年中児を対象とし、個々の園児が得意とする分野を更に強化し、当該園児の総合的な発達を助長すると共に他の園児への良い刺激とする。
12. 園児の正常な発達のために、次のような「連携活動」を取り入れる。
  - ① 子育て支援活動－「子育てエンジョイランド」「うさぎぐみ」
  - ② 家族の来園促進－「自由参観一常時」「保育活動や・行事への補助要請」
  - ③ 他施設等との交流－「老人施設の訪問」「地域行事へ参加」「学生等の受入れ」

○ 指導計画作成上の基本的な考え

年齢	基本的な考え
0才児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育教諭との生活を通じ、愛着関係を育む</li> <li>・ 園児の好奇心を育て、感覚刺激を呼び起こす環境を創出する。</li> <li>・ 季節を体で感じながら、自然にたっぷりふれる。</li> <li>・ 保育教諭や友達とたくさんあそび、共感し合う中で、人とかかわることを心地よく感じる。</li> <li>・ 園内における感染症の蔓延を防止する。</li> <li>・ 保護者との間に信頼関係を築き、子どもの成長に有意義な情報交換を行う</li> </ul>
1才児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自我の芽生えを尊重し、基本的な人間関係の基礎を養う。</li> <li>・ 体を積極的に動かし、運動機能の向上を図る。</li> <li>・ 戸外にて活動する時間を確保し、自然にふれる。</li> <li>・ 子どもが話したいと言う欲求を大切にし、言語機能の発達を促す。</li> <li>・ 保育教諭や友達とたくさんあそび、共感し合う中で、人とかかわることを心地よく感じる。</li> <li>・ 園内における感染症の蔓延を防止する。</li> <li>・ 保護者との間に信頼関係を築き、子どもの成長に有意義な情報交換を行う</li> </ul>
2才児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ やりたいことに主体的に取り組めるようにする。</li> <li>・ 園生活に必要な自分の身の回りのことを少しずつ出来るようにする。</li> <li>・ 戸外にて活動する時間を確保し、自然にふれる。</li> <li>・ 子どもが話したいと言う欲求を大切にし、言語機能の発達を促す。</li> <li>・ 小集団における集団遊びを積極的に行い集団遊びの楽しさを感じる。</li> <li>・ 園内における感染症の蔓延を防止する。</li> <li>・ 保護者との間に信頼関係を築き、子どもの成長に有意義な情報交換を行う</li> </ul>
3才児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園生活における基本的な生活習慣を身につける。</li> <li>・ 積極的に戸外に出て活動する。</li> <li>・ クラス内において担任や他の園児とともに集団での活動を楽しむ。</li> <li>・ 様々なものに対する豊かな感受性をもち、自分なりの表現をして楽しむ。</li> <li>・ 保育者や他の園児との共に過ごすことの喜びを味わう。</li> <li>・ 身近な自然に親しみ、自然の中で遊ぶ。</li> </ul>
4才児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラス内において積極的に他の園児に係わり、遊びを広げていく。</li> <li>・ 積極的に戸外に出て活動する。</li> <li>・ 集団内において自分の意見を他の園児に伝えることが出来る。</li> <li>・ 様々なものに対する豊かな感受性をもち、自分なりの表現をして楽しむ。</li> <li>・ 身近な自然に興味を持ち、自然の中で遊ぶ</li> <li>・ 日常生活の中で数や図形、文字などに興味を持つ。</li> </ul>
5才児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラス内において積極的に他の園児に係わり、遊びを広げていく。</li> <li>・ 積極的に戸外に出て活動する。</li> <li>・ 日常生活の中で数や図形、文字に関する興味を持つ。</li> <li>・ 様々なものに対する豊かな感受性をもち、自分なりの表現をして楽しむ。</li> <li>・ 身近な自然に興味を持ち、自然の中で遊ぶ</li> <li>・ 年長児として様々な活動に積極的に取り組む。</li> </ul>